

2層型制振材料ラウンドロビンテスト結果について (その1)

Round robin test results for unconstrained damping materials.

計測・評価技術分科会 2層型制振材料ラウンドロビンテストWG

- WG 主査 井上 茂 (JARI)
副主査 大門静史郎 (松下インターテック)
委員 ○山村 陽茂 (三菱自工) , 浅見敏彦 (姫工大) , 遠藤 紘 (秋田高専)
小川 俊夫 (金沢工大) , 尾那 達雄 (オンテック) , 添田 善弘 (横浜ゴム)
中沢 貞夫 (小野測器) , 野桑 聡 (ゼン化成) , 松井 有人 (NTN)
金沢 純一 (小林理研) , 山本 一美 (ヒロテック) , 立石 寛 (リオン)

概要：24機関が参加して、2層型制振材料ラウンドロビンテストを実施した。各機関が採用した試験方法は、機関によっては2種類の試験方法で実施されたため、延べで片持ちはり法17機関、中央加振法13機関、二本吊り法2機関であった。得られた全データを解析した結果、ばらつきが大変大きいことが判明した。

キーワード：2層型制振材料、ラウンドロビンテスト、損失係数

1. はじめに

1994年6月に2層型制振材料ラウンドロビンテストWG (以下、2層型WGと呼ぶ)が発足し、これまで19回のWGを開催している。2層型WGは、試験機関の損失係数のばらつきの有無とその解析、制振鋼板ラウンドロビンテスト結果との整合性、JIS形式による報告書の作成を主目的として発足したWGである。計測・評価技術分科会では随時経過報告を行っているが、定例会としては昨年(1999)の12月1日に経過を報告した。その後、テストデータのデータベース化手法の検討およびデータ入力を行い、現在はデータのチェック、データ処理および解析を実施している。